



ふ れ あ い  
市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

教育を地域の最重要事項に

市政に携り2年弱、日々、「教育」の大切さを実感する機会が増えています。南あわじ市の子どもたちは、のびのびと育ち、スポーツ、音楽、美術、文芸など多くの分野で活躍しており、これをもっと伸ばしていきたいと感じています。

最新の研究では、幼い頃からの教育の質が、人の一生、職業や収入、さらには、成年後の健康状態にも大きく影響することを示しています。また、近年、インターネットの普及等で、仕事の場所の自由度が高まったため、若者が定住・移住する場所を選ぶ際、地域の子育て環境・教育の質が決定的な要因となりつつあります。

南あわじ市は、先駆けて3歳児以上の保育無料化を実現するなど、子育てにやさしいまちづくりに努めています。更に、魅力的な教育づくりにも取り組みつつあります。その内容をいくつか紹介したいと思います。

(1) 地域の伝統を活かしてコミュニケーション能力を高める

市内には、歴史的遺産など、教育の素材が数多くありますが、中でも、500年の伝統を持つ淡路人形浄瑠璃は、言語、音楽、美術、動作など多様な要素を統合した総合芸術です。本市では、小中学校を通じて人形浄瑠璃等の

伝統芸術を学ぶことにより、子どもの能力開発を行うカリキュラムづくりに挑戦しています。各校の教職員が関わり、コミュニケーション能力など、子どもたちが身に付けるべき資質・能力を明確にした授業実施案を作成中です。来年度には、いくつかの学校で、検証授業をスタートさせます。

(2) 防災教育で、生き抜く力を

本市では、南海トラフ地震や豪雨・台風の発生に備え、生徒全員が率先避難者として自らの命を自らで守ることができるよう、防災訓練などを充実させていますが、さらに、防災を学ぶことを通じて、自ら考え、決断し、行動し、助け合うという、「人としての生き方あり方に触れる防災教育」を目指しています。その一環として、昨年から「防災ジュニアリーダー養成事業」を推進しています。本年も13名の中学生が合宿や東北ボランティア派遣に参加し、その体験を各学校やイベント等で発信しています。

(3) 放課後や休日の子育て環境の充実

子育て環境の向上に、全ての子どもが利用できる「学校」という場を最大限に活用したいという思いがあり、ふたつの取り組みを計画しています。一つは、放課後の子ども教室の充実です。日数を増やし、体験的な学習の中で様々な学びが得られる場所にしていきます。二つ目は、要望の多い遊び場充実の声に応えるため、土日や祝日に、小学校の校庭を開放し、子どもたちや家族、地域の方々のふれあいの場としていきます。

若年期の教育投資は最も効果的な投資であると言われる。地域力もお借りしつつ、「教育で選ばれるまちづくり」を着実に進めていきたいと考えています。

吉備国際大学志知キャンパス

学園祭「第3回くにうみ祭」を開催

11月10日(土)に本学農学部主催の学園祭を開催しました。このたびの学園祭開催にあたり、関係各位の皆さまのご尽力には心から感謝申し上げます。大勢の皆さまにご来場いただいたおかげで、体育館で行われた各イベント、中庭での模擬店は大盛況で終えることができました。

また、同日開催のキャンパス見学会に市外から来ていた高校生も学園祭の盛り上がりを見て入学の意志を固め、来年度から南あわじ市民の一員となってくれることを期待しています。来年度も同時期に開催予定としておりますので、今後とも皆さまのお力を賜りますようお願い申し上げます。



中庭での模擬店の様子



体育館・中庭等で楽しいイベントを開催



入谷支部長(右)と小林副支部長

厚生労働大臣表彰

南あわじ市いずみ会  
三原支部(入谷百合子支部長、小林みち子副支部長)

三原支部は、昭和61年に結成し、32年間、地道に食生活改善活動を続けてこられました。現在は、43人の会員が三原地区をはじめ、市内各地区で活動。食育講座やイベントで、子どもたちに郷土料理の押し寿司やちよぼ汁などを提供しているほか、減塩による生活習慣病の予防を啓発するなど、地域に貢献されています。

竹田さんは、昭和50年から環境省自然公園指導員と県自然保護指導員を務めており、島内の環境



竹田 俊道(志知)

藍綬褒章

平成30年度秋の褒章

同指導員だった父親の影響で動植物の観察を行うようになった竹田さん。父が初めて福良で発見したクチキオロギが、島内に広く分布していることを発見しました。また、慶野松原に営巣するシロチドリの子を観察が日課。「冬の間、丸い体を砂に沈め、寒さに耐えている姿がかわいい」と笑顔で話していました。

保全と啓発に取り組んできました。

社会を明るくする運動  
作文コンテスト発表会を開催

犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする「社会を明るくする運動」への理解を深めるために行われた「南あわじ市作文コンテスト発表会」が11月10日、中央公民館で開催されました。市内の小中学生の作文365点の中から14点が入賞作品に選ばれ、受賞者による作文発表が行われました。

受賞者は次の通りです。

小学校の部 ※敬称略

最優秀賞

旦 実愛(倭文中)

優秀賞

阿部 萌菜(阿万小)

出口 和奏(三原志知小)

佳作

蜂須賀 彩音(湊小)

金田 咲来(八木小)

稲井 志織(市小)

四宮 颯華(阿万小)

特別賞更生保護女性会長賞

岡田 一真(榎列小)

中学校の部 ※敬称略

最優秀賞

里深 叶恋(三原中)

優秀賞

水田 あかり(三原中)

道上 結月(西淡中)

佳作

安富 元貴(西淡中)

岡島 匠秀(沼島中)

特別賞BBS会長賞

榎本 望来(三原中)

“社会を明るくする運動”  
兵庫県推進委員会による審査結果(中学生)

佳作

里深 叶恋(三原中)

受賞おめでとう

(敬称略)

ひょうご県民ボランティア活動賞

◆個人の部

児童を対象とした食育活動に貢献  
原 朋子(南あわじ市いずみ会西淡支部)



同作文コンクールで入賞した子どもたち